

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成30年11月12日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4675200226
法人名	有限会社 文月会
事業所名	グループホーム ころこ
所在地	鹿児島県姶良市加治木町西別府2820番地3 (電話) 0995-63-6300
自己評価作成日	平成30年10月14日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/content/wamnet/pcpub/top/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人自立支援センターかごしま福祉サービス評価機構
所在地	鹿児島県鹿児島市星ヶ峯四丁目2番6号
訪問調査日	平成30年10月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

桜島や周囲の山々を借景にし、四季を感じながら、静かで穏やかに生活できる環境である。グループホームの周囲は畑があり、様々な作物を楽しむ事ができる。近隣の方々との交流もあり、農作物の話や、グラウンドゴルフ、病院、介護サービスの話題など高齢者同士の会話も出来る。最後までグループホームで過ごす事を選択される方が多くなっている。本人や先生方、ご家族等とグループホームの職員や管理者、訪問看護ステーションの看護師と連携をし、どの様に過ごしていきたいのか語れる環境もある。訪問看護師との連携がよく、また、医師との連携も良いため、入院まで至る事例がほとんどない。介護職員は、入居者の不安行動などに敏感で察知し、援助的コミュニケーションを発揮し、入居者が安心していききたいと思う環境を作ろうと努力している。家族の面会も多く、ご自分のご家族の生活している様子や表情、笑顔を見て、本人と共に喜んでいただいている。入居者のどの部分を援助していくのかという事に力を入れている。ある入居者が最近言われた事で「自分で歩いて、自分の思う時に部屋に行ったり、トイレに行けることが、どんなにか嬉しい」と語っていただいた。入院後に転倒のリスクが大きくなり車椅子を使用されていた。身体拘束防止の対策をきっかけに「動かない様にとという対策ではなく、筋力を高める様な対策をとり転倒のリスクを予防しよう」。傾聴できる私達でありたい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・当ホームは、自治会の総会や清掃活動に地域の一員として参加したり、近隣住民と農作業中や散歩時の会話などで日頃から地域と交流している。また、公民館で毎月住民を対象にしたサロンを実施しており、介護相談等を受けるなど、地域貢献に取り組んでいる。
- ・入居前のかかりつけ医との関係を継続できるよう支援し、24時間医療連携体制や訪問看護ステーションとの連携や協力関係を築いている。
- ・重度化等の場合も主治医や看護師の協力を得て、最後まで本人・家族等の望まれる介護に努めている。
- ・安全対策として、居室の1つを掃き出し窓に変えてスロープを設置し避難路を確保している。
- ・管理者は、職員のスキルアップを目指すと共に、対人援助の研修では職員自身の心理面の負担軽減も図っている。調理担当職員の配置により職員がケアに集中して取り組める体制を整えたり、リフレッシュ休暇等の福利厚生にも配慮するなど、就業環境の整備に努めている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	最後まで地域で過ごせる様に援助していきたく願っている。徐々に語れなくなる入居者が最後まで笑顔で入れる様な援助を心がけている	理念は見直しており、ホーム内に掲示し、パンフレットにも記載している。ミーティング時やケアを行う中で、理念に沿っての支援ができてきているか問いかけ、振り返っている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	グループホームが地域の一員となり、回覧や地域の美化作業への参加、自治会総会への参加、地域公民館の使用許可等を得ている。野菜作り等の助言も得ている。	自治会に加入し、地域の一員として総会や清掃活動に参加し、農作業や散歩時に住民と会話する等、日常的に交流しており、差し入れもある。公民館でサロンを運営し、住民からの相談も受けている。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている。	運営推進会議の場で、認知症の方の困難事例等について共有する場がある。地域の方々の相談を受ける場合もある		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入退居状況や活動実施状況、研修状況等の報告を行う。待機者の状況や入院中の処遇など疑問に思われた事を少しではあるが、理解できるように説明など行っている。わかり易い形にしていきたい	2ヶ月に1回の運営推進会議を開催し、ホームからのヒヤリハットを含めた状況報告等の意見交換をしている。認知症に対する理解を深められるよう、家族は交代での参加をしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営推進会議への参加を依頼して、その際に出た疑問等には回答いただいたり、グループホームの運営上で出た疑問などは相談に行きアドバイスなどを受けている	運営推進会議時の意見交換や窓口に出向いて報告・相談する等、市の介護保険及び生活保護担当者と連携を図っている。市の研修会にも参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	体制と入居者でBPSDが出現している様な場合以外は施錠はしていない。1日に何回も外へ出られる方もおられるが、見守りと月1回行っている、身体拘束防止委員会の中で、拘束しない対策を共有し対応している	指針を作成しており、委員会を毎月のミーティング時に実施し、事例毎の対策等を検討している。スピーチロックは、気付いた時に管理者から注意を促している。外出希望の利用者には、日中の玄関の施錠はせず、職員の見守りや声かけで対応している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会の中で、拘束と共に虐待も議論している。また、入浴や更衣、介助の機会に虐待はないか意識している		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度について学ぶ機会がある。特に金銭については難しく家族が適切な判断ができない状態の場合など、活用に至るまでがとても困難だという事を実感した。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約については十分に説明をしている。特に利用料金の支払いの事や退居の場合等については、十分に説明を行っている</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>利用料の支払いや面会時、自室で過ごしている時に伺い、要望や意見を教えていただける様、言葉かけを管理者が行っている。ご家族へ電話等で伺う場合もある。</p>	<p>本人からは日常のケアの中でや各居室で要望等を聞いている。家族からは、運営推進会議や面会時等に要望等を聞いている。「台風等で被害がない場合でも状況を教えて欲しい」との要望を受けて、電話等の報告で意見を反映させている。</p>	
11	7	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。</p>	<p>管理者が職員と運営に関する相談又は提案を聴くことがある。また、ミーティングではそれぞれの意見を言える様に配慮している</p>	<p>管理者は、ミーティング時に職員の提案等を聞く機会を設けている。利用者個々のケアについてや備品購入の提案等があり、即、ケアの試行や浴室乾燥機の購入等、反映している。個別相談は管理者が受けて対応している。</p>	
12		<p>○就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。</p>	<p>他事業所などの給与水準や労働時間、勤務状況、勤務内容などを調査し検討している。職員が向上心を持って働ける様、環境の整備に努めている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>グループホーム内外で対人援助の研修をし、ケアをすることで介護者が苦しみを抱え込まない様に研修している。実際に関わっている職員は「介護をすることが楽になった」と表現している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>同業者と研修会を行っている。参加する中で、介護職員同士の苦しみや、共有できる部分などがわかり、働く意欲やネットワークづくりにいかせている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご家族と共にご本人に、生活していく上で、今困っている事を最初に十分に伺うようにしている。また、退院後直接の方は、病院へ訪問し看護師にも伺うようにしている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学申し込みの電話の際や、見学の際に十分に語りを促がし、困っている事や不安に思っている事、こうしたい等を十分に伺いたいと思っている。まだ、不十分である。後で語っていただける事の方が多い		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族の介護疲労が大きく、まずは入居という事が多い。支援を見極め支援し、対応に努めている		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、本人が自分の意思で判断し行動する事を支持し、自ら日常生活ができる実感が持てる様に援助したいと願っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の際等に、家族にグループホームでの生活様子を伝え、家族である事が実感できるように、一緒に喜び、一緒に悩みを共有している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅で過ごされていた時の主治医や、自治会の仲間、一番大切な方等、会話の中で、一緒に共有できるように心がけている。主治医などは継続して、これまでの経過を踏まえて助言をいただいている	家族とお寺参りやかかりつけ医の受診・外食に出かけたり、知人からの声かけや同級生の情報を伝えて昔話等の会話に繋げるなど、これまでの生活や関係を継続できるよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	それぞれの想いを大切にし、ひとりひとりが孤立しない様に居場所を作っている。居室で過ごす時はホールの声が聴こえる様な配慮をし、話しやすい様な環境を作れるよう配慮している		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後もお電話等の対応を行っている。相談や支援に努めている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思いや暮らし方の意向について、日頃の暮らし方から語りを促がし、把握に努めている。介護者の希望や意向になっていないか配慮している	日常生活の中で、本人の思いを言葉で表出できるよう支援している。困難な場合は、家族や主治医・以前使用していた事業所からの情報や表情・行動から本人の思いを把握するように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族、地域の方々から、生活歴や、暮らし方、生活環境、サービスの利用状況について伺い把握に努めている。また病院などからの情報提供もある		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の記録の中や毎日の実践の中で、一日の過ごし方や身体状態、有する力を把握に努めている。また、ミーティングの中で情報交換をし把握に努めている		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の語りや家族との話し合い、職員ミーティングで方針を共有しそれに即した介護を作成している。行っている実践に対してモニタリングし介護を変更している	事前に本人・家族の要望等を把握し、ミーティング時に職員と検討して介護計画を作成している。モニタリングを3ヶ月に1回実施して計画を見直している。状況変化時にも現状に即した介護計画に変更している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>毎日ある認知症の方の苦しみを援助しその実践を記録し気づき等を日々、確認し共有し次の実践に行かしている。評価は介護計画の見直しにも役立てている</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>ご家族がサービスを受けなければならない状態であると認識した場合、在宅での生活が継続出来る様に他サービスへ相談する、又は、地域包括支援センターへ連絡する等を行っている</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の方々やご家族、孫等、民生委員やアドバイザー等地域の面会や、情報提供などを会話の中でいかし、一日一日が安心して暮らせる様に支援している</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>入居の時点でのかかりつけ医を大事にし関係を断ち切らない様にし、必要であれば、紹介医へ受診をしている。適切な医療が受けられる様に連携を図っている</p>	<p>本人・家族の希望するかかりつけ医の受診を支援しており、職員が受診同行している。往診の利用や訪問看護及びかかりつけ医との連携・協力で必要な医療を受けられるよう支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>医療連携で訪問看護師が1週間に1日訪問する。その際に気づきや受診の際の報告、訪問診療の報告等情報提供し相談する。また、その際に必要があれば、主治医につなげられる様支援している</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時に家族と共に同席し、退院までの経過の理解と退院後の受け入れなどについて主治医及び地域連携室と説明を受ける又は、提案、情報交換する等を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>早い段階からご家族や本人、主治医と話し合い、その方針を、家族、主治医、訪問看護師、GHスタッフ等が共有できるようにコミュニケーションに努めている。看取りを進めていく上ではとても重要な事であると認識している。</p>	<p>契約時に事業所の方針について説明し、状況変化時に家族へ主治医から説明を行い、同意書を得られている。家族の意向に沿って、主治医・訪問看護師・職員が方針を共有し取り組んでおり、看取り介護の実績がある。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>現在予測できる様な急変に対しては、ミーティング等で学習している。救急対応の事例が発生後学習の機会を設けている。看護師などへ報告が出来る様にしている</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>運営推進会で火災や地震、水害などの避難対策などを発表する等で地域の方々への協力を得ている。また、避難訓練などを年3回行っている。訓練が義務的にならない様に心がけている</p>	<p>年1回消防署立会いの昼夜想定の実施訓練を行い自主訓練を2回実施している。災害時の緊急連絡網もあり、役割分担もできている。運営推進会議参加者に見守りを担当してもらっている。水・アルファ米・缶詰・レトルト食品・カセットコンロ等を備蓄している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ひとりひとりの人格の尊重やプライバシーや誇りを損ねない言葉遣いやトイレ等や入浴等の対応に配慮している。	ミーティング時に研修を実施している。入室時の声掛けや更衣・排泄・入浴介助時の羞恥心にも配慮した支援で、心を配り人格の尊重やプライバシーに対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	人によってはその意図を言葉にしにくい人もあり思いを語れるように援助的コミュニケーションで自己決定出来る様援助にこころがけている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	なかなか、その人らしい過ごし方が徐々にできにくくなるが、その時、その方がしたい事を希望にそって支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	大抵の方は、ご家族が衣替えをしその方らしい身だしなみが出る様に準備していただいている。起床時準備したものを着て来られる方、自分で準備される方もある。化粧品などは買い物支援している		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を知らせ、食事の下ごしらえ等一緒にする場合もある。また、台拭きや食器ふきをすることもあるが、その時の体調や雰囲気のできない場合もある。	献立は旬の物を取り入れ、自家菜園の新鮮なものを使い、個々に応じた食事形態で提供している。調理員もいる。利用者も台ふきや下ごしらえを行い、職員と一緒に食事を摂っている。行事食や花見弁当・外食等の食べる楽しみにも工夫して取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量のチェックや水分量のチェックを必ず行っている。必要であれば補足などの支援や、食事量が不足であれば、形態を変えたり、嗜好品で補食している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ひとりひとりに食後声かけし、見守り後、必要であれば洗い直しをさせていただいている		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	夜間は自室でオムツの交換を行う事はあるが、日中はトイレの排泄を配慮している。また、チリ紙等トイレで常時使う物があるか確認をしている	昼間はトイレでの排泄を支援しており、自立している利用者が多い。排泄チェック表で個々のパターンを把握し、必要に応じて声掛けや誘導を行っている。利用者が、退院時にオムツからホームでリハビリパンツに改善した事例がある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の量や食事時間、水分量、材質、運動量など配慮しているが、筋力の低下により、腹圧がかげられないケースが増えている。主治医に相談しながら、便秘の改善に取り組んでいる		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	事業所が決めた入浴時間ではあるが、個々に応じて無理強いはしていない。一人ずつゆっくりとした入浴を支援している	週3回の入浴を基本に午後の時間帯で実施し、個浴をゆっくり楽しんでいる。本人の希望や失禁時には入浴を実施しており、嫌がる利用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	それぞれの生活習慣により、夜間は気持ちよく睡眠がとれている。夜間十分な睡眠がとれなかった場合は、体調の不調を察知したり、起床を遅らす、朝食を遅らすなどの配慮をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤師による服薬支援の勉強会をし、それぞれ個々の服薬の注意点や副作用など学習し、日頃の援助に役立てている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている</p>	<p>「退屈だ」「何もすることがない」と言われるが、日々、洗濯物をたたむ、美味しい物を食べる、縫物を頼む等、負担にならない程度の依頼を心がけている。一緒にテレビをみる等も気分転換になる</p>		
18		<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>週1回、家族の元へ外泊する際、地元のタクシーや家族に協力を得て出かけられる様になっている。また、日々、戸外に出かける対象にも地域の方々が見守って下さっている。</p>	<p>日常的に、車椅子の利用者も散歩をしており、時には庭でお茶会をすることもある。ホームの行事で花見や神社参り・水族館に出かける他、希望でドライブや公園に出かけている。近隣の人の見守りもある。家族の協力により、寺参りや外食に出かけたり、外泊をする利用者もある。本人の希望に合わせて支援している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭出納簿を提示し、また、一緒に記帳などしながら、金銭管理をしている。また、社会福祉協議会の事業を利用出来る様支援している。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している</p>	<p>本人から家族への電話等、希望があった場合など、電話の使い方を説明したり、会話できる状態に支援している。</p>		
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居者の方が間違えない様に、部屋にそれぞれ工夫をしている。それぞれの部屋から外の景色が見え季節感が味わえる様な環境である。光はカーテンや椅子の向きで調整、配慮している。</p>	<p>リビングは明るく採光や室温等が適度に調節され、非常口も広く、スロープのある掃き出し窓の設置がある。壁に行事の写真や作品が飾られており、廊下のソファや居室にいる利用者も人の気配を感じながら、安心して思い思いの場所で過ごしている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>それぞれが、過ごせる様な居場所づくりの提供に配慮している。入居者同士で会話をしたり、洗濯物をたたんだり、テレビをみたりと様々だが、ひとりで過ごしてはいるが、人の気配も感じながら過ごしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>ご家族の協力を得ながら、在宅と同じように必要なものや、着慣れた衣類、布団、また、習慣は入居の際又は、面会の際にご家族にここでの生活の様子をお話する時間伺っている</p>	<p>ベッドと整理タンスを備えた居室に、本人が使い慣れた寝具やテレビ・ソファを持ち込み、位牌や写真・ぬいぐるみ等を置いて安心して過ごせるように配慮されている。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>トイレの手摺の設置や浴室の手摺の設置、廊下の手摺の設置、ベットの配置や低床ベットの配慮や、立位のし易い、ベットの高さ等配慮を個々に行いながら、自立した生活が送れるように工夫している</p>		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない